FD NEWSLETTER

CONTENTS

- 「ＦＤ」の再定義にむけて
  ＦＤ推進委員会委員長
  学長　石井清純
- 平成 23 年度ＦＤ研修会
- 「人見知りの学生たち」と共に
  総合教育研究部准教授　齊藤明美
- 平成 23 年度ＦＤ推進委員会及び小委員会の活動報告
- 平成 24 年度新規採用教員オリエンテーション
- ＦＤ推進委員会の今後の活動予定
- 初年次教育学会第５回全国大会開催のご案内

「ＦＤ」の再定義にむけて

駒澤大学ＦＤ推進委員会委員長
学長　石井　清純

本学がＦＤ推進委員会を設置して９年目となる。授業アンケートや各種研修会等の活動も、小委員会を中心に改善を図りながら定着してきており、データも経年的な分析も行えるまでに集積されてきた。

この間に築き上げられてきた経験と実績は極めて貴重である。しかし、今後このまま継続してゆくのでは、ＦＤの意義は、いままで以上のものとはなり得ない。

昨年度より設置された大学院ＦＤ推進委員会において、昨年、寺崎昌男先生をお招きして、ＦＤのあり方についてご講演をいただいたが、そこにおいて先生は､「教員が授業内容･方法を改善し向上させるための組織的な取り組み」という中教審の解説が、きわめて狭義のＦＤを指しており、むしろ、カリキュラム方針や、それに基づいた授業間連携の見直しなど、巨視的な教育改善の取り組み全体をＦＤと考えることが世界的な基準であると指摘された。これはまさしくＦＤの定義の根幹に係わる重要なご提言である。

本学がいままでのＦＤ活動を維持しつつ、さらに主体的な活動を模索すべき時にあって、このご指摘は極めてタイムリーであった。そこで、本年度第２回のＦＤ推進委員会では、このご講演全文を各学部学科に配布し、ＦＤについての概念規定の再考をお願いしたのである。これは、本年度に実施される、自己点検・評価に向けて、ＦＤに対する意識自体も、しっかりと点検していただきたいと考えてのことでもあった。

他律的で、かつ個々の教員の授業のありかたのみを視野に入れたＦＤは、「管理」の意識が付き纏う。しかし、そのＦＤを、広く学部学科の専門教育から、さらに大学全体の教育の本質的な改善に向けての活動と捉えれば、過去の教育資産や教員の先進的な研究活動を､いかに現代社会の要求に適合させ､どのように教育に反映させるかという､まさしく大学にとって本質的かつ普遍的に継続すべき活動ということになる。

今、本学はカリキュラム改革のさなかにある。駒澤大学としての特色ある教育と、社会的な要請に基づいた質保証とを両立させること、すなわち広義のＦＤ活動による、内からなる必要性と外からの要請の明確化が、新しいカリキュラムの実効性の鍵となるともいえるのではないであろうか。主体的かつ積極的な検討をお願いしたい。

平成23年度ＦＤ研修会

駒澤大学ＦＤ推進委員会ではさまざまなＦＤ活動を行っており、その一環としてＦＤ研修会を毎年行っています。今年度は「平成24年度自己点検・評価に向けて」をテーマに次のとおり開催し、多くの教職員の参加がありました。研修会の実施概要を報告いたします。

日時　平成24年3月15日（木）14：00～15：00

場所　第二研究館　209教場

演題　平成24年度自己点検・評価に向けて

内容

1.「自己点検・評価におけるＦＤ活動の取り組み」
　経営学部　猿山義広先生（ＦＤ推進委員会小委員会委員、学部等自己点検・評価運営委員会委員）

2.「内部質保証の問題点－アウトカム・アセスメントをめぐって－」
　仏教学部　吉津宜英先生（附属研究所自己点検・評価運営委員会委員長）

司会　仏教学部　熊本英人先生（ＦＤ推進委員会小委員会委員長）

＜研修会の概要＞

今回の研修会では、経営学部の猿山義広先生と仏教学部の吉津宜英先生に『平成24年度自己点検・評価に向けて』をテーマに講演していただきました。

猿山先生は、自己点検・評価に際しての留意すべき事項等についてと授業アンケートについて講演され、授業アンケートの項目では、先生が行われた座談会「学生から見た授業アンケート」の内容をもとに授業アンケートの現状について報告されました。「個々の授業についてのアンケート結果がわからない。また、どういった学生の意見を聞くかも重要」、「改善を目標にするなら、もっと質的調査を行う必要がある」等の声が挙がっているようです。現状の授業アンケートの実態は、学生と教員は一方通行のように捉えられています。学生と教員の意見交換の場を設けることで、授業アンケートがより充実したものになると思われます。以前、先生がまとめられた論文には、「教員の教育努力については、授業の計画性が学生の聴講態度に影響を与えていた」「レベル設定の適否は、主として教員側の問題だが、学生側にも努力するべき点が見られた」「教育効果は学生と教員の双方の努力によってもたらされていた」等の結果が報告されています。学生と教員が向き合い、互いにコミュニケーションをとることが、質の良い授業を展開させるための重要な点であることを改めて実感しました。

吉津先生は、「内部質保証の問題点－アウトカム・アセスメントをめぐって－」について、大学基準協会主催大学評価シンポジウム（基調講演1「アメリカにおけるアウトカム・アセスメントの取り組み」、2「日本におけるアウトカム・アセスメントの取り組み」、パネルディスカッション「アウトカム・アセスメントの可能性－大学評価を一層有効なものにするために－」）の内容を紹介しながら講演されました。アメリカにおける認証評価は、初期の最小限の基準を確認するレベルから、次第に内部質保証を問うものになり、現在では、「開かれた大学として社会に対して説明責任を問う段階」にまで至っているようです。

パネルディスカッションでは、教育成果は学習成果のみではなく、大学生活全般の総合力として評価するべきという提案があがっている点、また大学基準協会の点検・評価科目においては、教育内容の成果への評価の流れとPDCAサイクルとの関連性、つまり教育評価の設定がPlan（方針、目標、ポリシーの設定）、Do（教育の実施）、Check（各種の点検）、Action（改善と更なる目標の設定）と共通している点などについて意見が交わされました。国際基督教大学では、ディスカッション中心の講義で学生が書き込んだコメントシートに教員がコメントを付けて戻す取り組みや学生の学習意識調査（回収率40%）等が行われているという例が紹介をされましたが、この取り組みについて、「本学のように大教場での講義もある現状ではコメントシートの実行は難しい」との意見も出ました。

今回の講演では、授業アンケートの改善策やFD活動に求められる事項、授業計画の必要性、PDCAサイクルの重要性等、質の良い大学へ向けての取り組み方や方法がたくさん紹介されました。

今回の研修会における講演内容は、平成26年度から導入される初年次教育科目の運営方法にも関わる内容であり、また本学におけるＦＤ活動の在り方を見直すうえでも大変貴重なものだと思われます。

（末次美樹・内藤寿子）

左より猿山先生、吉津先生、熊本先生

会場の様子

連載企画：よりよい教育のために

「人見知りの学生たち」と共に
―外国語教育の現場から―

総合教育研究部　准教授　齊藤明美
（ＦＤ推進委員会小委員会副委員長）

早いもので今年総合教育研究部外国語第二部門（スペイン語）に就任してから6年目を迎える。

帰国後初めて教壇に立った時に驚いたことは、目前に座る50人あまりの学生の多さであった。また感情表現が豊かで、なにかと自己主張が強いヨーロッパの若者に慣れていた私にとって、無表情で大人しい日本人学生の姿に軽いカルチャーショックを覚えた。スペイン語教授法コースにて一番避けなければいけないことの一つとして教えられたのは、「大人数教室による一方通行の授業」であったので本当に戸惑った。90分間、学生の興味関心を引きつつ緊張感のある授業を保つのは非常に難しい。特に外国語の授業は彼らの積極的な授業参加なしには成り立たない。「どうすれば学生の授業参加を促進することが出来るのか。」以後、日々この問題に悩まされることになったが、まれに少しの工夫が良い雰囲気を生み出すことも発見した。この場をお借りして外国語授業活性化のためのごく簡単な個人的な取り組みを紹介したい。

まず円滑な授業運営を目指す上で教員と学生の信頼関係が大前提となるが、特に初回の授業（顔合わせ）が重要になるだろう。主に講義の目標や内容、授業の進め方等の説明が中心になるが、担当教員の学生時代のクラブ活動や研究テーマ、そして留学時代についても写真などを交えながら自己紹介している。教員への親近感が学生のその教科への取り組みに良い影響を与えることは誰しも各自の学生時代を振り返れば思い当たるだろう。また同時に彼らのことを少しでも知るために簡単なアンケート（授業で期待すること、興味関心、学習歴など）を行い以後の授業展開の参考にしている。教場では涼しげな顔で座っている彼らもふたを開けてみれば「去年エクアドルに旅行し現地の人に良くしてもらったから。」「地元にペルー人の友人がいるので。」「Facebook でスペイン語圏の知り合いがたくさんできたから。」「将来サッカー留学したい。」などと意外な一面を見せてくれる。

また簡単なことであるが、できるだけ早く名前を覚えることも肝心だ。学生の顔を見ながら「〇〇さん、お願いします」と指名すると自然と笑顔になる。このことが教員や教科に対する興味や学習意欲向上に結び付いてくれればなによりだ。それから発音とあいさつの導入としてスペイン語の名前を配っているが、自分や友達の名前は印象に残りやすく知識の定着にも非常に有効である。また各自スペイン語の名前を持つことで授業内だけでも日常と違った自分を表現できるのがとても楽しそうに見える。さらに継続的にコミュニケーションを図りながら学習理解度を測るため、毎回の出欠確認時に既習文法事項を含む簡単な質問を一人一人の顔を見ながら行っている。教員が学生の発する学習言語に肯定的に反応することで、外国語学習に潜在的な苦手意識を持つ学生に「伝わった」という喜びを持たせることが学習意欲の向上や自信につながるのではないか。当初は視線をそらしがちであった「人見知り」の学生も、前期が終わるころにはこちらの目を見て答えてくれるのはうれしい。

これまで教員と学生間の信頼と尊敬に基づいた関係が授業運営の大前提であることを述べてきたが、それは学生間においても同じだろ

う。外国語教育の効率の向上のみでなく、学生のコミュニケーション能力構築においても重要であると思われる。その中で教員は彼らが他者との関わりをスムーズに築くための仲介役を担うことができる。

初回の授業では簡単な自己紹介を扱うが、実際に「5 人の人にあいさつし自己紹介をしましょう」という活動を行っている。もちろん机に座ったままではなく、自由に移動して次の相手を見つけ会話させる。教員も参加する。これは単にスペイン語の基本的なあいさつを自然に身につけさせるのみでなく、初対面同士である学生間の緊張を解きほぐし、よりアットホームな授業環境を生みだすのに大いに役に立っている。また時折、短時間で行えるゲームを取り入れることにより、硬直化したグループの枠をいったん外して、新たな関係の構築に結びつけることも肝心である。

今回の機会を利用して初習外国語授業活性化の個人的な取り組みを振り返ってみたが、「これだ！」という特効薬は存在しないことをあらためて確認した。なぜなら、一口に「学生」といっても一人ひとりの能力、興味関心は多種多様であり、彼らを取り巻く社会情勢も刻一刻と変化し続けているからだ。また情報ツールの進歩や、それと反比例する生の人間同士の繋がりの希薄化にも外国語教員は注意を向けなければいけない。学生の理解度や状況を察し、授業を組み立てていくフレキシブルな対応が一層求められるだろう。このような中でより効果的な授業を行うためには、各教員の努力の他にやはり教員間の密接な連携と協力体制が必要不可欠であるとおもう。個人レベルの「工夫」も、集まれば大きな財産になる。そういう意味では、教員も学生と共に日々成長しながらより効果的な授業運営の仕方を模索し続けなければならないだろう。

平成 23 年度ＦＤ推進委員会及び小委員会の活動報告

平成 23 年度

4 月

・「新規採用教員オリエンテーション」を開催

・第 1 回ＦＤ推進委員会及び小委員会を開催

6 月

・第 2 回ＦＤ推進委員会及び小委員会を開催

・2011 年度「学生による授業アンケート」（前期）の実施

・FD　NEWSLETTER 第 27 号を発行

7 月

・第 3 回ＦＤ推進小委員会を開催

9 月

・FD　NEWSLETTER 28 号を発行

・第 4 回ＦＤ推進委員会小委員会を開催

11 月

・2011 年度「学生による授業アンケート」（後期）の実施

・平成 23 年度公開授業の実施（12 月 8 日まで）

・第 3 回ＦＤ推進委員会を開催

・第 5 回ＦＤ推進員会小委員会を開催

12 月

・FD　NEWSLETTER 29 号を発行

1 月

・社会人基礎力テストを実施（一部の学科）

2 月

・ＦＤ推進委員会及び小委員会を開催

・平成 23 年度「大学生の就業力育成支援事業の取組評価」を実施

3 月

・平成 23 年度ＦＤ研修会を実施

・FD　NEWSLETTER 第 30 号を発行

・平成 23 年度『ＦＤ活動報告書』を発行

平成 24 年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も４月２日に新規採用教員を対象としたオリエンテーションを開催しました。

専任教員９名、非常勤教員 42 名の計 51 名の先生方にご出席いただきました。

本年は学内行事の入学式と重なっていたため、第一部の始めにＦＤ推進委員会小委員会委員長の熊本英人委員長（仏教学部教授）より、本学のＦＤ活動について説明いただき、事務局からは、総合情報センターから KOMAnet（コマネット）や、YeStudy（e-learning）等の利用について、図書館からは図書館利用について、教務部からは授業に関係する説明を行いました。

その後、石井清純学長より、冊子『駒澤大学の沿革と建学の理念』に基づき本学の建学の理念について、小野浩一教務部長より授業運営にあたっての配慮等について説明がありました。

第一部終了後、希望された先生方を講師控室までご案内し、講師控室利用の説明を行いました。

第二部では、専任教員を対象にした研究費等に関する説明を行いました。

直後に辞令交付を控え、あわただしい時間ではございましたが、多くの先生方にご参加いただきました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成 24 年４月２日（月）13：00～15：00

2. 出席者数

50 名（案内状発送　101 名）

3. 式次第

・学長挨拶

・教務部長挨拶

・ＦＤ推進委員会小委員会委員長挨拶

・大学案内（総合情報センター・図書館・教務部）

・質疑応答

質疑応答後、講師控室等に案内し解散した。

石井清純学長

小野浩一教務部長

授業に関する説明

平成 24 年度ＦＤ推進委員会の今後の活動予定

○　平成 24 年度第 3 回ＦＤ推進委員会

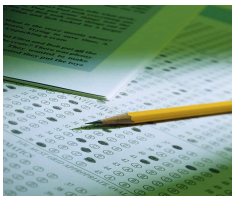
平成 24 年 7 月 25 日（水）　13：00～

○　平成 24 年度第 3 回ＦＤ推進委員会小委員会

平成 24 年 7 月 25 日（水）　ＦＤ推進委員会終了後

○2012 年度「学生による授業アンケート」（後期）実施のお知らせ

実施期間：平成 24 年 11 月 6 日（火）～平成 24 年 11 月 12 日（月）



対象科目：全科目対象（集中講義科目、演習科目、受講生が 20 名未満の科目は除く）

初年次教育学会第５回全国大会開催のご案内

本学は、2010 年度より、機関会員として、初年次教育学会に入会しています。初年次教育学会は、初年次教育に関する研究と実践の有機的発展とその成果の普及による大学教育改善への貢献及び会員相互の研究交流の促進を目的としています。

初年次教育学会第５回全国大会が、9 月 5 日（水）～9 月 6 日（木）の期間に文教学院大学にて開催されます。機関会員は 5 名まで参加できますので、参加を希望される専任教員は、事務局にお申し出ください。

初年次教育学会第５回全国大会

1）開催日

平成 24 年 9 月 5 日（水）～9 月 6 日（木）

2）会　場

文教学院大学　本郷キャンパス

〒113-8668　東京都文京区向丘 1-19-1

編集後記

「FD　NEWSLETTER」第 31 号をお届けいたします。本号は、「ＦＤ活動の再検討」をテーマに企画・編集を行いました。

巻頭言では、ＦＤ推進委員会委員長の石井清純学長に「「ＦＤ」の再定義にむけて」をご執筆いただき、連載企画では、ＦＤ推進委員会小委員会副委員長で、総合教育研究部の齊藤明美先生に「「人見知りの学生たち」と共に - 外国語教育の現場から - 」をご執筆いただきました。また、3 月に開催されたＦＤ研修会の報告も掲載いたしました。

平成 26 年度のカリキュラム改革に向け、ＦＤ活動の成果を教育に活かしていく事が求められています。「広義のＦＤ活動による、内からなる必要性と外からの要請の明確化が、新しいカリキュラムの実効性の鍵となる」という石井清純学長のご指摘を拝見し、改めてＦＤ活動の再検討の必要性を実感いたしました。また、語学教育に関する齊藤明美先生のご報告と、ＦＤ研修会における猿山義広先生、吉津宜英先生のご報告は、ともに平成 26 年度から導入される初年次教育科目の運営方法にも関わる貴重なものだと思います。

第 27 号の編集後記にも記されていますが、「FD　NEWSLETTER」の役割は、情報の共有の場を提供することにあると考えます。今後とも、貴重なご報告や忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後に、新学期の公務ご多忙の折、ご協力いただきました先生方に深く感謝申し上げます。（末次美樹・内藤寿子）

【タイトル横の写真は、禅文化歴史博物館】

ＦＤ NEWSLETTER Jun. 2012 第 31 号

発行日：2012 年 6 月 30 日

発行者：駒澤大学ＦＤ推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444　Fax 03-3418-9114

（事務局：教務部）